

調査結果の概要

1 食育に関する意識について

(1) 朝食の摂取状況

「ほとんど毎日食べる（週6～7日）」が81.3%

朝食の摂取状況について、「ほとんど毎日食べる（週6～7日）」と答えた人の割合が81.3%と最も高く、続いて「週4～5日食べる」（6.3%）、「週2～3日食べる」（4.6%）の順となっている。一方で、「ほとんど食べない（週0～1日）」と答えた人の割合は7.2%となっている。

(2) 野菜を食べる頻度

「1日1回食べる」が39.5%

野菜を食べる頻度について、「1日1回食べる」と答えた人の割合が39.5%と最も高く、続いて「1日2回食べる」（37.8%）、「1日3回以上食べる」（17.7%）の順となっている。

(3) 家族や友人などと食事をとる頻度

「ほとんど毎日とっている（週6～7日）」が57.7%

1日1食以上の食事を、家族や友人などと2人以上で30分以上かけてとる頻度について、「ほとんど毎日とっている（週6～7日）」と答えた人の割合が57.7%と最も高く、続いて「ほとんどとっていない（週0～1日）」（18.2%）、「週2～3日とっている」（13.1%）の順となっている。

(4) 適正体重の認識と体重コントロールの実施

「適正体重を認識しているが、体重コントロールは実施していない」が41.4%

適正体重の認識と体重コントロールの実施について、「適正体重を認識しているが、体重コントロールは実施していない」と答えた人の割合が41.4%と最も高く、続いて「適正体重を認識し、体重コントロールを実施している」（32.8%）、「適正体重を認識していないが、体重コントロールは実施している」（12.7%）の順となっている。

2 農林水産業との関わりについて

(1) 農産物等を購入する際に優先する産地

“国内産であれば、愛知県産にはこだわらない”が60.7%

農産物等を購入する際に優先する産地について、「価格が多少高くても、愛知県産をできる限り優先して購入する」（4.4%）と「価格が他産地と同等であれば、愛知県産をできる限り優先して購入する」（11.0%）を合わせた“愛知県産をできる限り優先して購入する”と答えた人の割合は15.4%となっている。

「国内産であれば、愛知県産にはこだわらず、価格で判断して購入する」(31.8%)と「国内産であれば、愛知県産にはこだわらず、味・鮮度で判断して購入する」(28.9%)を合わせた“国内産であれば、愛知県産にはこだわらない”と答えた人の割合は60.7%となっている。

「産地にはこだわらず(愛知県産、国内産、外国産など関係なく)、価格で判断して購入する」(11.4%)と「産地にはこだわらず(愛知県産、国内産、外国産など関係なく)、味・鮮度で判断して購入する」(7.0%)を合わせた“産地にはこだわらない”と答えた人の割合は18.4%となっている。

(2) 「いいともあいち運動」の認知度

「全く知らない」が76.6%

「いいともあいち運動」の認知度について、「よく知っている」(2.4%)と「内容はよく知らないが、名前を聞いたことがある、またはマークを見たことがある」(20.4%)を合わせた“知っている”と答えた人の割合は22.7%となっている。

一方で、「全く知らない」と答えた人の割合は76.6%となっている。

(3) 「あいち認証材」の認知度

「愛知県産の木材があることを知らない」が66.8%

「あいち認証材」の認知度について、「愛知県産の木材があることを知らない」と答えた人の割合が66.8%と最も高く、続いて「『あいち認証材』は知らないが、愛知県産の木材があることは知っている」(28.7%)、「『あいち認証材』を知っている」(3.1%)の順となっている。

(4) 「花の王国あいち」の認知度

「知らない」が65.9%

「花の王国あいち」の認知度について、「知っている」と答えた人の割合が33.5%となっている。

一方で、「知らない」と答えた人の割合は65.9%となっている。

(5) この1年間に行った農林水産業に親しむ取組

「市民農園や家庭菜園、プランターなどで、野菜等を栽培した」が26.5%

この1年間に行った農林水産業に親しむ取組について、「市民農園や家庭菜園、プランターなどで、野菜等を栽培した」と答えた人の割合が26.5%と最も高く、続いて「愛知県産の農林水産物を意識して消費(購入)・利用した」(14.0%)、「農林漁業に関する体験やレクリエーション(田植え、芋掘り、果物狩り、乳絞り、ソーセージ作り、間伐、木工教室、潮干狩り、舟釣りなど)に参加した」(3.8%)の順となっている。

一方で、「農林水産業に関係する活動には取り組まなかった」と答えた人の割合は60.9%となっている。

3 自然・生きものについて

(1) 自然への関心度

“関心がある”が72.7%

自然への関心度について、「非常に関心がある」(17.3%)と「どちらかといえば関心がある」(55.4%)を合わせた“関心がある”と答えた人の割合は72.7%となっている。

一方で、「あまり関心がない」(20.7%)と「全く関心がない」(2.6%)を合わせた“関心がない”と答えた人の割合は23.3%となっている。

(2) 「生物多様性」の認知状況

“意味を知っている”が51.2%

「生物多様性」の認知状況について、「言葉の意味をよく知っている」(11.7%)と「言葉を聞いたことがあり、意味もある程度知っている」(39.5%)を合わせた“意味を知っている”と答えた人の割合は51.2%となっている。

一方で、「言葉を聞いたことはあるが、意味は知らない」(31.4%)と「言葉を聞いたこともない」(11.2%)を合わせた“意味を知らない”と答えた人の割合は42.5%となっている。

(3) 生物多様性保全に関して心がけている行動

「プラスチックごみを道路に捨てたりしない」が86.0%

生物多様性保全に関して心がけている行動について、「プラスチックごみを道路に捨てたりしない」と答えた人の割合が86.0%と最も高く、続いて「ペットは最後まで責任を持って飼う」(47.7%)、「地元でとれたものを食べ、旬のものを味わう」(35.5%)の順となっている。

(4) 参加したい生物多様性保全活動

「自然観察会や探鳥会、自然体験ツアー（エコツアー）などのイベント」が21.7%

参加したい生物多様性保全活動について、「自然観察会や探鳥会、自然体験ツアー（エコツアー）などのイベント」と答えた人の割合が21.7%と最も高く、続いて「里山や湿地、河川、海岸などの美化・保全活動」(17.5%)、「自然保護活動のための金銭などの寄付」(12.5%)の順となっている。

一方で、「参加したいと思わない」と答えた人の割合は22.3%となっている。

(5) 自然との共生に対する考え方

「林や川、田園など、身近に自然のある街で便利に暮らしたい」が39.6%

自然との共生に対する考え方について、「林や川、田園など、身近に自然のある街で便利に暮らしたい」と答えた人の割合が39.6%と最も高く、続いて「日常は都市で暮らしながら、週末などは自然のある場所へ行きたい」(28.7%)、「ある程度不便でも、豊かな自然に囲まれて暮らしたい」(8.9%)の順となっている。

4 認知症に関する意識について

(1) 認知症の人と接する機会の有無

「ある」が 56.5%

認知症の人と接する機会の有無について、「ある」と答えた人の割合が 56.5%となっている。一方で、「ない」と答えた人の割合は 42.7%となっている。

(2) 認知症の人と接する機会

「家族の中に認知症の人がいる (いた)」が 50.5%

認知症の人と接する機会について、「家族の中に認知症の人がいる (いた)」と答えた人の割合が 50.5%と最も高く、続いて「親戚の中に認知症の人がいる (いた)」(28.7%)、「近所付き合いの中で、認知症の人と接したことがある」(20.5%)の順となっている。

(3) 認知症に対するイメージ

「認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる」が 39.1%

認知症に対するイメージについて、「認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる」と答えた人の割合が 39.1%と最も高く、続いて「認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける」(35.5%)、「認知症になると、症状が進行していき、何もできなくなってしまう」(7.6%)の順となっている。

(4) 認知症になった場合に希望する暮らし方

「認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していきたい」が 33.9%

認知症になった場合に希望する暮らし方について、「認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していきたい」と答えた人の割合が 33.9%と最も高く、続いて「認知症になると、周りの人に迷惑をかけてしまうので、介護施設で必要なサポートを利用しながら暮らしたい」(28.3%)、「認知症になると、身の回りのことができなくなってしまうので、介護施設で必要なサポートを利用しながら暮らしたい」(15.3%)の順となっている。

(5) 成年後見制度に関する認識

「『成年後見制度』は、認知症、知的障害、精神障害などの理由で判断能力が不十分な方の権利や財産を守る制度である」が 40.4%

成年後見制度に関する認識について、「『成年後見制度』は、認知症、知的障害、精神障害などの理由で判断能力が不十分な方の権利や財産を守る制度である」と答えた人の割合が 40.4%と最も高く、続いて「将来の判断能力の低下に備え、元気な時にあらかじめ後見人となるべき人を決めておく『任意後見制度』がある」(22.2%)、「本人の判断能力の程度により『後見』、『保佐』、『補助』の3類型がある」(9.1%)の順となっている。

一方で、「内容は知らないが言葉を知っている」と答えた人の割合は 26.0%、「内容も言葉も知らない」と答えた人の割合は 26.8%となっている。

5 住まいに関する意識について

(1) 現在の住まい

「家族で、一戸建て住宅（持ち家）に住んでいる」が72.7%

現在の住まいについて、「家族で、一戸建て住宅（持ち家）に住んでいる」と答えた人の割合が72.7%と最も高く、続いて「家族で、民間の賃貸住宅に住んでいる」（7.2%）、「一人で、一戸建て住宅（持ち家）に住んでいる」（6.3%）の順となっている。

(2) 将来の住み替えなどの希望

「現在の住宅に住み続けたい」が52.2%

将来の住み替えなどの希望について、「現在の住宅に住み続けたい」と答えた人の割合が52.2%と最も高く、続いて「現在の住宅をリフォームしたい」（14.9%）、「新築の一戸建て住宅を購入したい」（9.3%）の順となっている。

(3) 中古住宅購入の際に不安に思うこと

「品質が適正かわからない」が29.9%

中古住宅購入の際に不安に思うことについて、「品質が適正かわからない」と答えた人の割合が29.9%と最も高く、続いて「購入にあたり、何に気をつければよいかかわからない」（15.6%）、「価格が適正かわからない」（9.1%）の順となっている。

(4) 中古住宅購入の際のリフォーム上の課題

「預貯金や返済能力の不足、またはその可能性がある」が24.7%

中古住宅購入の際のリフォーム上の課題について、「預貯金や返済能力の不足、またはその可能性がある」と答えた人の割合が24.7%と最も高く、続いて「信頼できる施工業者などの情報が得にくい」（17.7%）、「希望するリフォームにどの程度の費用がかかるかわからない」（16.8%）の順となっている。

(5) 住まいやまわりの環境についての将来の不安

「地震などの災害時の安全性を確保できるか」が34.7%

住まいやまわりの環境についての将来の不安について、「地震などの災害時の安全性を確保できるか」と答えた人の割合が34.7%と最も高く、続いて「住宅そのものや設備などが古くなった時に住み続けられるか」（27.6%）、「住宅を維持管理、清掃などする労力が続くか」（21.9%）の順となっている。

(6) 住まい・まちづくりについて大切だと思うこと

「災害への対策」が69.1%

住まい・まちづくりについて大切だと思うことについて、「災害への対策」と答えた人の割合が69.1%と最も高く、続いて「高齢者や障害者の暮らしやすさ」（48.6%）、「若年世帯や子育て世帯などの暮らしやすさ」（32.3%）の順となっている。

6 地域の治安と防犯について

(1) 地域の治安の変化

「以前と変わらない」が 57.2%

地域の治安の変化について、「以前と変わらない」と答えた人の割合が 57.2%と最も高くなっている。

「とても良くなっている」(1.6%)と「良くなっている」(7.1%)と「少し良くなっている」(7.8%)を合わせた“良くなっている”と答えた人の割合は 16.5%となっている。

「少し悪くなっている」(12.3%)と「悪くなっている」(3.1%)と「とても悪くなっている」(0.9%)を合わせた“悪くなっている”と答えた人の割合は 16.4%となっている。

(2) 治安が悪くなっていると思った理由

「地域の警察や自治体の広報で、犯罪の多発を知ったから」が 32.0%

治安が悪くなっていると思った理由について、「地域の警察や自治体の広報で、犯罪の多発を知ったから」と答えた人の割合が 32.0%と最も高く、続いて「身近に犯罪の被害が発生したから」(23.7%)、「地域の住宅や公園などの防犯上の環境が悪くなったから（街路灯及び照明灯の減少や故障、樹木の伐採不足による見通しの悪化、長年管理されず放置されている空き家の増加など）」(19.8%)の順となっている。

(3) 地域における防犯ボランティア活動への参加

“参加意欲がある”が 37.9%

地域における防犯ボランティア活動への参加について、「参加している」(6.0%)と「現在、参加していないが、今後参加したいと思っている」(6.1%)と「参加の意欲はあるが、参加の仕方がわからない」(4.8%)と「参加の意欲はあるが、仕事や時間の都合で参加できない」(16.3%)と「参加の意欲はあるが、現在住んでいる地域では実施されていない」(4.7%)を合わせた“参加意欲がある”と答えた人の割合は 37.9%となっている。

一方で、「参加しようとは思わない」と答えた人の割合は 36.0%となっている。

(4) 防犯対策で特に力を入れて欲しいと思うこと

「防犯カメラの設置」が 40.6%

防犯対策で特に力を入れて欲しいと思うことについて、「防犯カメラの設置」と答えた人の割合が 40.6%と最も高く、続いて「住宅地や公園などへの、街路灯及び照明灯の設置、樹木の伐採による見通しの確保」(26.5%)、「警察・自治体・地域住民などが連携した活動」(25.2%)、「警察による犯罪の取締り・パトロール活動」(25.2%)の順となっている。

(5) 住宅への侵入盗対策として実践していること

「多額・不必要な現金を自宅に保管しないようにしている」が42.7%

住宅への侵入盗対策として実践していることについて、「多額・不必要な現金を自宅に保管しないようにしている」と答えた人の割合が42.7%と最も高く、続いて「不在時に部屋の灯りを点けている」(38.8%)、「センサーライトを設置している」(37.9%)の順となっている。

一方で、「何もしていない」と答えた人の割合は11.7%となっている。

(6) 自動車関連窃盗対策として実践していること

「車内に荷物を置かないようにしている」が69.1%

自動車関連窃盗対策として実践していることについて、「車内に荷物を置かないようにしている」と答えた人の割合が69.1%と最も高く、続いて「警報装置を設置している」(23.8%)、「照明設備が整っている明るい駐車場を利用している」(16.2%)の順となっている。

一方で、「何もしていない」と答えた人の割合は10.9%となっている。

(7) 特殊詐欺対策として実践していること

「携帯電話やスマートフォンで迷惑メールを拒否する設定にしている」が38.3%

特殊詐欺対策として実践していることについて、「携帯電話やスマートフォンで迷惑メールを拒否する設定にしている」と答えた人の割合が38.3%と最も高く、続いて「家族で特殊詐欺を話題にするようにしている」(34.7%)、「固定電話を常時留守番電話設定にしたり、被害防止対策電話機(自動録音機能や着信拒否機能等の付いた電話機)を活用している」(31.9%)の順となっている。

一方で、「何もしていない」と答えた人の割合は21.1%となっている。

7 科学技術及び知的財産について

(1) 科学技術に対するイメージ

「様々な技術革新により生活を便利で快適にしている」が27.8%

科学技術に対するイメージについて、「様々な技術革新により生活を便利で快適にしている」と答えた人の割合が27.8%と最も高く、続いて「産業を活性化させ、経済を発展させるものである」(12.8%)、「未来の夢を実現していくために必要なものである」(11.7%)の順となっている。

(2) 科学技術の貢献を期待する分野

「医療技術・治療薬など、健康の維持・増進などに関する分野」が61.2%

科学技術の貢献を期待する分野について、「医療技術・治療薬など、健康の維持・増進などに関する分野」と答えた人の割合が61.2%と最も高く、続いて「地球環境の保全や水素社会などの新しいエネルギーに関する分野」(49.2%)、「防犯・セキュリティーや災害に強い建物など街づくりに関する分野」(25.8%)の順となっている。

(3) 科学技術にとって重要となる人材育成の対象

「科学技術を具現化する企業の研究者・技術者」が43.7%

科学技術にとって重要となる人材育成の対象について、「科学技術を具現化する企業の研究者・技術者」と答えた人の割合が43.7%と最も高く、続いて「科学技術への興味を深める中高生」(40.5%)、「新しい世代に科学技術の楽しさを伝える指導者」(39.5%)の順となっている。

(4) 科学技術に関する重要な施策

「大学や企業などが行う、地域の産業や社会の課題を解決するための研究開発に対する資金的支援」が45.7%

科学技術に関する重要な施策について、「大学や企業などが行う、地域の産業や社会の課題を解決するための研究開発に対する資金的支援」と答えた人の割合が45.7%と最も高く、続いて「大学や企業などの研究の成果を社会で実用化させるための取組や支援」(40.9%)、「世界トップレベルの研究者など科学技術の次代を担う人材の育成」(29.9%)の順となっている。

(5) 「知的財産」や「知的財産権」としてイメージするもの

「青色LEDやリチウムイオン電池のような大発明(特許)」が66.1%

「知的財産」や「知的財産権」としてイメージするものについて、「青色LEDやリチウムイオン電池のような大発明(特許)」と答えた人の割合が66.1%と最も高く、続いて「音楽や映画、小説などの製作者が有する権利(著作権)」(44.6%)、「購買意欲をかき立てるような商品デザイン(意匠)」(14.5%)の順となっている。

(6) 知的財産に関する重要な施策

「次代を担う子供たちのモノづくり創造性育成教育の拡充」が41.4%

知的財産に関する重要な施策について、「次代を担う子供たちのモノづくり創造性育成教育の拡充」と答えた人の割合が41.4%と最も高く、続いて「事業者に対する、知的財産権の取得・活用支援」(36.0%)、「幅広い年代を対象とした、知的財産に関する啓発活動の実施」(26.4%)の順となっている。

(7) 「愛知の発明の日」の認知度

「知らない」が88.4%

「愛知の発明の日」の認知度について、「知っており、関連行事(講演会や工作教室など)に参加したことがある」(0.5%)と「知っているが、関連行事には参加したことがない」(9.0%)を合わせた“知っている”と答えた人の割合が9.6%となっている。

一方で、「知らない」と答えた人の割合は88.4%となっている。